

毎週土曜日の午前 9 時 10 分～ 9 時 25 分放送

2010 年 12 月 28 日

午前 9:20 ～ 9:30

CRT 両毛支局にて収録

「理解」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(1) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加えながらお読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

1 . はじめに

明けまして おめでとうございます。開倫塾の塾長の林 明夫です。今年も 1 月 1 日から開倫塾の時間をお聴き頂きありがとうございます。

今回は、新年第 1 回目の放送なので、また、本年 3 月には開倫塾の時間の放送開始 25 年目を迎えますので「効果のあがる勉強の方法」をお伝えするという開倫塾の時間の原点に戻り、長年お話してきた「学習の 3 段階理論」についてお話いたします。

2 . 学習の 3 段階理論とは

Q : 「学習の 3 段階理論」はどのようにしてできたのですか。

A : (林明夫。以下略)

(1) 世の中には、同じ内容を勉強していながら、よい成績をとる人と余りよい成績をとれない人がいます。同じ試験を受けて合格する人と合格しない人がいる。それは何故(なぜ)か皆様は考えたことがありますか。

(2) 私は、開倫塾を始めて 31 年になります。開倫塾を始める前も大学生の時から 10 年くらい学習塾や予備校の講師、家庭教師をしていましたので、合わせて 40 年近くどうすれば塾生の皆様がよい成績がとれるようになるのか、どうすれば塾生の皆様が自分の希望する学校 開倫塾では自分の行きたい学校を「一流校」と呼んでいます。 に進学できるかを考え続けてきたことになりましたね。

(3) ずっとずっと考え続けて、はっきりしてきたことはよい成績を取る人は自分なりの勉強の仕方を身につけているということです。逆に言えば余りよい成績がとれない人は、自分なりの勉強の仕方を身につけていないということです。

(4) そこで、開倫塾を始めてしばらくしてから開倫塾の教育目標を定めるとき、その中にはっきり示そうと「自己学習能力の育成」(自分で学習する能力を育み育てる)ことを入れさせていただきました。CRT ラジオ栃木放送から毎週土曜日の午後生放送で開倫塾の時間問いう番組をやり、スポンサーになるよう御依頼があったときに「効果の上がる勉強の仕方」という内容であれば御依頼を受諾させていただきました。

(5) どうすれば「効果の上がる勉強」ができるのかということを知りやすく塾生の皆様にも保護者の皆様にも放送等を聞いて下さる地域社会の皆様にもビジネスパートナーの皆様にも、そして何よりも開倫塾の先生方にも御説明し、わかっていただき、それを身につけ、家や学校で勉強するときにも試験や実生活でも役立てて頂こうとできるだけ具体的にお示ししたのがこの「学習の3段階理論」です。

(6) どのようにして「学習の3段階理論」ができたか。私も小学生のころから勉強することが大好きだったので勉強の仕方には大きな関心がありました。中学、高校、大学と身近によく勉強する人を数多く見て、また、学習塾や予備校の講師、家庭教師として仕事をさせている間も開倫塾を始めさせてからも数多くの塾生の方々と接し、また、開倫塾以外でも素晴らしい勉強を毎日のようにさせて頂いておりますので、それらをすべてまとめさせていただいたのがこの「学習の3段階理論」です。20年以上前から少しずつまとめ始め、CRT ラジオ栃木放送や開倫塾講師を依頼された大学院、大学、短期大学、専門学校、高校、中学校、小学校、教育委員会、企業、NPO などありとあらゆるところでお話させていただき、皆様から御意見をいただきながら少し、少しまとめ直しているのがこの「学習の3段階理論」です。

(7) 今日これをまとめているのは2010年の大晦(おおつごもり)、一年の最終日12月31日ですので、これは2010年12月31日現在の「学習の3段階理論」といえます。この「学習の3段階理論」は、これからも少しずつ進化していくかもしれませんね。(このような経緯の意味で「学習の3段階理論」ができ上がり、また、考えられておりますので)どうか、この文章をお読みの皆様も自分なりの「勉強の仕方」を考え、身につける上でこの「学習の3段階理論」を参考にいただければありがたく思います。

Q: 「学習の3段階理論」はどのような内容ですか。

A: 学習を「理解」と、「定着」、「応用」の「3つ」の「段階」に分け、その1つ1つの「段階」の意味を考え、「定着」した上で1つ1つの段階ごとに具体的にどのような「勉強の仕方」をしたらよいかを考えたものです。

Q: 第1段階の「理解」とは何ですか。

A: (1) 「理解」とは今、学習していること(内容)が「うなるほど」と「よくわかること」、「納得できること」、「腑(ふ)に落ちること」をいいます。

(2) 学習する人にとって「理解」は、自分自身で学ぶ(自学自習)でもできますし、学校や開倫塾などで先生から教わること、つまり授業を通してでもございます。つまり、「理解」の場面は、自分自身で行う「自習」と先生からの「授業」の2つあるということです。

Q: 「授業」での「理解」のポイントは何か。

A: (1) 授業中は姿勢を正し、手を机の上に置いて先生の目を見つめ、先生の授業を一語一句聞き漏らさないように真剣に聞くことです。

(2) 授業を「欠席」「遅刻」「早退」すると、教室に不在(いない)間は先生の授業を受けられません。授業中に「私語」つまり「おしゃべり」や「居眠り」「携帯電話」「他の考えていること」「ボーッとしていること」「授業以外のことをしていること」は授業での「理解」の「妨げ」となります。また、他の人が授業で「理解」をすることの「妨げ」となりますので、できるだけ避ける、できれば「絶対にしない」よう心掛けるべきです。

- (3) 授業には先生の指示で積極的に参加し、授業での「理解」を促進しましょう。「友人と話し合いましょう」「ペアワークをしましょう」「実験・観察をしましょう」「調べましょう」「練習をしましょう」などと、先生が積極的な行動に出ることを指示したときには、その指示に従った行動をして下さいね。
- (4) 授業中に必要と思われることは「ノート」にどんどん「メモ」をすることも必ず行って下さい。先生が板書事項、つまり先生が黒板に書いたことだけでなく、授業中にお話して下さったことは一言残らずノートを取り続けるのもノートの取り方の一つの方法です。

Q : 「ノート」を取ること、「メモ」を取ることは大切なのですね。

A : (1) はい。人が話していることがすべてメモできる、ノートに取れることは大切な能力の一つです。

(2) 例えば、私はロシア語で人から話を聞いたり、授業を受けた内容は一言もノートに取れないと思います。日本語で聞いたり、授業を受けた内容は、余り難しくない内容でまた、ゆっくり話し手下さった場合には、ノートに取れることが多いかも知れません。つまり、私はロシア語ではメモやノートを取る能力があると言えます。

(3) その言語でメモやノートが取れるのは大切な能力があると言えます。

(4) 仕事をする上での教科書はほとんどありませんので、色々な人々から教えて頂いたり、話し合った内容を正確にメモし続けて仕事を身につけたり、仕事の上での約束を守ることが求められます。メモを取ることは仕事を上での役に立ちます。メモが取れない人はよい仕事ができない。メモがよく取れてメモをよく身につけた人は、よい仕事ができる。仕事はメモで身につける。仕事以外の社会的活動でもメモを取ることは大切です。

(5) 学校の授業でノートを取ることでできる能力を身につけることは、社会に出て仕事や様々な活動をする際に大切なことをメモし、自分の社会人としての責任を果たすことに役立ちます。

Q : 「ノート」や「メモ」はなぜ取らなければならないのですか。

A : (1) 「うんなるほど」と「理解」したことも、あとになると忘れてしまうことが多いからです。

(2) ものごとを「うんなるほど」と「理解」できることと、それを「覚えておくこと」、「身につけること」とは別のことと考え方がよい場合が多いように私は考えます。

(3) もちろん、印象深いことや物語のようなお話はあとあとまで「記憶(きおく)」の痕跡(こんせき)が残り、ずっと「覚えておく」こと、いつまでも「忘れない」こともあるかも知れません。

(4) しかし、授業で学んだこと、仕事の上で教えて頂いたこと、話し合ったり、打ち合わせをした内容のすべてをずっと覚えている、いつまでも忘れないでいることは余りできないのではないかと私は考えます。

(5) ですから、授業や仕事、社会的な活動で大切なことはしっかりノートに取る、メモをして置き、いつまでも見られるようにしておくことが大切だと私は考えます。

Q : ノートにとったことやメモしたことはどうしたらよいのですか。

A : (1) 授業が終わった後、また、人からいろいろなことを教わった後、仕事や社会的な活動で話し合いや約束ごとをした後、その「ノート」や「メモ」をもう一回見直し、よくその内容を思い出して必要なことを書き足したり、後で見やすいようによく整理することをお勧めします。

(2)大切なところは、マークを引く、下に線を引く、千で囲むと見易くなります。

(3)項目を下のように分けることを学ぶことも大切です。

(4)一番大きな項目は 、 、 、

- 1 .
 - ・次は 1、2、3、4.....
 - ・その下は (1)、(2)、(3)、(4).....
- 2 .
 - ・更に 、 、 、
 - と分けていくことが多いようです。
 - ・1、2、の次は 、 、 ではなくて(1)、(2)...です。
 - 、 は、(1)、(2)の次にきます。
 - ・学校の教科書をよく見て下さい。参考になりますよ。

Q：自学自習、つまり、自分一人で勉強しても「理解」はできるのですね。

A：(1)はい。学校の教科書や副読本、資料集、開倫塾のテキスト、副教材、図書館の本、本屋さんで売っている参考書などを自学習、つまり自分一人で勉強することでも「うんなるほど」と「理解」はできます。

(2)大切なことは、何で勉強するのかをはっきり決めることです。あれもこれもと世の中にあるすべての本や机以外の教材を用いることはできません。自分はこれでこの科目、この分野は勉強して、「うんなるほど」と「理解」するのだと、はっきり一冊、一種類の教材を決定することです。

(3)何を用いて勉強したらよいかかわからない人は、とりあえず、今勉強している学校の教科書や皆様は開倫塾で勉強してるのですから、開倫塾のテキストを用いることをお勧めします。

(4)教材を決定することが第一ですね。

Q：自分はこれで勉強するのだという教材を決めたら、次はどうしたらよいのかですか。

A：(1)学校や開倫塾で授業中に先生から授業を受けるような真剣さで、教材の一語一句をゆるがさず、「ああ、これはこういうことなのか」「うんなるほど」と実感するまで「理解」に励むこと。ゆっくり、ゆっくりと一語一語、ことばを噛み締めながら「そうか、そういうことなのか」と読み進めることが最も大切です。とにかくゆっくりゆっくり読むことです。

(2)そして、よくわからない「語句」や「内容」が出てきたら、サーと飛ばして先に進まないこと。よくわからなくて「気持ちがよくない」と思い、それはどのようなことなのか。その前や後の文章や内容をよく読み、その「語句」や「内容」を推測(すいそく)することが大切です。

(3)それでもよくわからなければ、「辞書」(国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典など)を引いて引いて引きまくり、「ことば」の語句の意味を調べまくることで。調べた内容は科目用の「ノート」や「語句ノート」に必ずメモ、記録をしておくこと。教科書に意味を書き込むことは避けましょう。

Q：語句ノートはどのように用いたらよいのですか。

A：(1)「語句ノート」は、毎日1回、最初の1ページからゆっくり読み直し、語句の意味を正確にこの「理解」。次に出てくる「定着」スラスラ口について正確に言えるように「音読練習」を

する。

(2) 正確に楷書で書けるまで「書き取り練習」をさせることが大切です。

Q：語句、ことばの意味は辞書で「理解」できても内容が難しくて、よくわからない場合にはどうしたらよいのですか。

A：(1) 学年別参考書を辞書の代わりに用いて、その内容を理解することが大切です。

(2) 参考書は、説明がやさしい表現で詳しく書かれているものがお勧めです。

(3) 内容がよく分からない場合には、学年別の説明が丁寧な参考書を辞書代わりに用いることがここでの勉強のコツです。

Q：学校や開倫塾の教科書など自分で決めた教材を辞書と参考書を用いて、自分の力でひたすら「理解」し続ける勉強の方法は、予習でも復習でも使えそうですね。

A：(1) はい。その通りです。ところで予習は何のためにするのだと皆様はお考えですか。私は、今述べたような方法で学校や開倫塾の先生方の授業をお聴きするような真剣さで、教科書の一行一行を一語一句ゆるがせにしないで「うなるほど」「そうか、これは、このようなことだったのか」と「理解」し、よくわからない「ことば」「語句」は辞書で、「内容」は学年別の説明の丁寧な参考書を辞書代わりに用いて「理解」し尽くすことが予習の第一歩と考えます。

(2) そして、どうしても自分の力では「うなるほど」と「理解」できないところは何かをはっきりさせる、明確にする、つまり、問題意識をもって授業に臨むことが予習の目的と考えます。

(3) 予習をすることでこのわからなことを自分の力ではっきりさせてから授業に臨むという勉強の方法は、皆様が将来、大学や大学院で勉強したり、研究したりするときにも、また、社会に出て企業や様々な場所でものごとを学んだり、取り組んだりするときにとっても役立ちますよ。予習をすることの意味をはっきり自覚し、将来に備えて下さいね。

(4) 一度授業を受けた後の復習にも教科書を先生の授業を聞くような真剣さで一語一句ゆるがせにしないで、ゆっくりゆっくり真剣に読み「うなるほど」と「理解」するまで読み込む。わからない語句は「辞書」、わからない「内容」は「学年別参考書」で「理解」に励むというこの勉強仕方は役立ちます。

(5) このような方法で「復習」をしてもよくわからない、「理解」できないことがあれば、学校や開倫塾の先生にどうか遠慮なく質問して下さいね。わからないこと「理解」できないことを残さないことも大切な勉強の方法です。

(6) それまでのことがすべて「100%理解」できていれば、次のことがよく「理解」できる場合が多いと考えます。新しいことを完全に「理解」するために最も求められるものは、それまでに学んだことよく「理解」していることです。

(7) 新しいことを100%完全に「理解」するためには、それまでのことを100%「理解」し、もしできれば「理解」した内容を正確に身につけること、次に出てくる「定着」していることが大切と考えます。

(8) この考え方を完全習得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)と呼びます。例えば、もし教科書の60ページから65ページまでを完全に「うなるほど」と「授業」や「自学自習」で「理解」したいならば、それまで勉強したはずの1ページから59ページまでをすべて「うなるほど」と完全に「理解」し、もしできれば、すべて身につける(定着させる)ように努力しておいた方がよいということです。

Q：お話が随分本格的になってきましたね。

A：はい。「うんなるほど」と「よくわかる」「腑(ふ)に落ちる」という意味での「理解」もよく考えれば、いろいろな考え方、やり方があるということです。まだまだこの「理解」についてお伝えしたいことはたくさんありますが少し長くなりましたので、「学習の3段階理論」の第一段階、「理解」のお話は今回はこれでおしまいにしましょう。

3．おわりに

(1)次回の CRT 栃木放送「開倫塾の時間」2011年1月8日土曜日午前9時15分から9時25分までの放送では、「学習の3段階理論」の第2段階である「定着」について御説明させて頂く予定です。

(2)上の文章は、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の林明夫のコーナーの CRT 栃木放送「開倫塾の時間」のページでも公開しております。他の「CRT の開倫塾の時間」の内容も文章とともに是非御覧下さい。

(3)本年もどうかよろしく願い申し上げます。

*長い文章を最後までお読み頂き、感謝申し上げます。

感謝

2010年12月31日記